

2026-2030



栃木県 農業試験研究 推進計画

Toghigi Agricultural Experiment and Research Plan



令和8(2026)年3月 栃木県

はじめに

本県では、広大で肥沃な農地や豊富な水資源などの恵まれた生産環境、首都圏に位置する地理的優位性、農業者の高い技術力などを生かした多彩な農業が展開されています。

試験研究はこれまで、県オリジナル品種や品質・収量の向上等を図る技術の開発、家畜伝染病対策の確立など、多様なニーズや課題に対応し、本県農業・農村の発展に貢献してきました。

担い手の急減や気候変動の顕在化、デジタル化の進展など、農業を取り巻く情勢が大きく変化する中、生産現場の技術的な基盤を支える試験研究の役割は、一層重要となっています。

今般、県では、農業の魅力を高め、力強い産業として発展させていくため、将来像に「担い手と地域が元気に輝く栃木の農業～農業やるなら栃木県～」を掲げた栃木県農業振興計画「とちぎ農業未来共創プラン」を策定し、3つの重点戦略を中心として各種施策を展開していくこととしました。

本計画は、これらの施策展開と連動し、試験研究を効果的・効率的かつ戦略的に推進するため、今後5か年の基本方針や重点的に取り組む試験研究課題などを明らかにしたものです。

生産現場との協働や産学官連携の強化等を図りながら、本計画を着実に推進し、農業の生産力強化や収益性の向上、活力のある農村環境の創出などにつながる研究成果を生み出し、誰もが豊かさを実感できるとちぎの農業・農村の実現に向けて取り組んで参ります。

令和8（2026）年3月

栃木県農政部長 廣川 貴之

1 策定の趣旨

本計画は、栃木県農政部の試験研究機関（水産試験場、農業総合研究センター、県央家畜保健衛生所、畜産酪農研究センター）において実施する試験研究を、効果的・効率的かつ戦略的に推進するため、中長期的な展望に立って策定したものです。

2 位置付け

栃木県農業振興計画『とちぎ農業未来共創プラン』に掲げた将来像「担い手と地域が元気に輝く栃木の農業～農業やるなら栃木県～」の実現に向けて、生産現場の課題解決を図る試験研究を推進していくに当たり、基本方針や重点的に取り組む試験研究課題、推進方を明らかにしています。

3 計画期間

令和8（2026）年度から令和12（2030）年度までの5か年計画とします。

目次

| | | |
|------|-----------------------------------|----|
| 第1章 | 試験研究をめぐる情勢 | 1 |
| 第2章 | 試験研究の基本方針 | 3 |
| | 1 基本目標 | |
| | 2 重点テーマ | |
| 第3章 | 試験研究課題 | 4 |
| | 1 生産性向上 | |
| | 1-1 スマート農業技術に適した新品種・新技術の開発 | |
| | 1-2 生産性と収益性を向上させる革新的栽培技術の確立 | |
| | 1-3 生産性向上に向けた家畜衛生対策の確立 | |
| | 1-4 スマート農業技術等を活用した家畜生産管理技術の確立 | |
| | 1-5 地域資源の有効活用による耕畜連携モデルの確立 | |
| | 1-6 生産性を向上させる新たな養殖技術の開発 | |
| | 2 気候変動への対応 | |
| | 2-1 気候変動に伴う栽培環境の変化に対応した新品種・新技術の開発 | |
| | 2-2 夏季の高温に対応した農作物安定生産技術の開発 | |
| | 2-3 気候変動に対応した持続性の高い畜産経営の確立 | |
| | 2-4 水産資源の持続的な活用に向けた温暖化への適応技術の開発 | |
| | 3 環境との調和 | |
| | 3-1 環境負荷低減と収益性を両立する生産技術の開発 | |
| | 3-2 有機農業の拡大に資する技術の開発 | |
| | 3-3 持続可能な畜産経営のための環境負荷低減技術の開発 | |
| | 3-4 自然との共生に向けた魚類の生息環境改善技術の確立 | |
| | 4 ブランド力向上 | |
| | 4-1 本県農業の生産基盤を支えるオリジナル品種の開発 | |
| | 4-2 100年続く「いちご王国・栃木」を実現するいちご品種の開発 | |
| | 4-3 地域畜産物のブランド価値を支える生産技術の確立 | |
| | 部門・分野別の主な研究課題 | 22 |
| 第4章 | 試験研究の推進方策 | 27 |
| 参考資料 | | 28 |